教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	4	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	教材を通し、筆者の主張、登場人物の心情を読み取る中で多様なものの見方・考え方や、様々な人物の生き方に触れ、自分のものの見方・考え方を深め、本文全体を踏まえた上で自分の意見を論理的に述べる力を養う。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身に着ける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける
使用教科書	『国語２』（光村出版）　『新しい書写二・三年用』（東京書籍）
使用副教材	『実力練成テキスト国語中学２年』（文理）『やさしくくわしい古典文法』（尚文出版） 『ビギナーズ古典』（尚文出版）　『常用漢字クリア』（尚文出版） 『国文法ワークブック』（東京書籍）『新国語便覧』（第一学習社） 『論理エンジンＯＳ２』（水王舎）
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・常用漢字の習得 ・複数の意味を持つ漢字・語句を理解し、使い分けすることができる。 説明文・論説文 ・事例や考察の関係、論証の過程など正確につかみ、筆者の主張を理解する。 詩歌・文学的文章 ・人物の心情の変化を、情景描写や人物像、場面構成を通して、的確に読み取る。 ・比喩等の表現方法の用法を理解し、わかり易く説明することができる 古典 ・中世から中古の説話文や物語文 ・古典名文の音読・暗誦。百人一首かるたの実施。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	国語	小説	「アイスプラネット」等		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		説明文	「生物が記録する科学」等				■		■	■																										
		短歌	「新しい短歌のために」等								■																									
		随筆	「言葉の力」等								■	■																								
		論説	「モアイは語る」等														■	■	■																	
		小説	「盆土産」等																■	■		■														
		評論	「君は「最後の晩餐」を知っているか」等																			■	■	■	■											
		小説	「走れメロス」等																										■	■	■					
		論説	「科学はあなたの中にある」																												■	■	■			
		言語知識	漢字・文法等		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■			■	■	■	■		■			■	■	■	■	■		■	
		文法（文語）	自立語		■	■	■																													
			用言の活用						■	■	■	■		■			■	■																		
			付属語																■	■		■	■	■	■		■									
			付属語（助動詞）																										■	■	■	■	■		■	
		書写	書写																								■									

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①（数式）	3	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，計算力（文字式の計算，連立方程式の解法）を育成すること、関数とグラフ（1次関数の式とグラフ，二元1次方程式の表す直線）についての理解を深めること。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・用語，記号の意味の理解を徹底するとともに，式の書き方，論理的な表現力の育成を目指すこと。 ・中学校数学は，「数式，図形，関数，統計」分野を，各学年で内容を深めながらスパイラル方式で指導し，その理解と定着を目指していることに留意し，決して直線的な指導にならないように注意すること。
教科書	中学校数学2（数研出版），中学校数学3（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ代数編，体系数学問題集Ⅰ代数編 体系数学Ⅱ代数編，体系数学問題集Ⅱ代数編
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1．　式の計算 　簡単な整式の加減，単項式の乗法・除法について学ぶ。 2．連立方程式 　連立二元1次方程式の解の意味とその解法について学ぶ。 3．1次関数 　1次関数について，表・式・グラフを相互に関連付けて理解する。 [発展学習] ・整式の性質，四則計算について，さらに深める。 ・数の平方根について理解し，数の概念についての理解を深める。 ・2次方程式の解法を理解し，それを用いて事象を考察できるようにする。 ・関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴や関数値の変化（最大値、最小値、変化の割合）などの関数の性質を理解する。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学①	式の計算(中2)	■	■			1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	連立方程式			■	■		■																														
	1次関数							■	■	■	■																										
	式の計算(中3)																■	■	■	■	■																
	平方根																				■		■	■	■												
	2次方程式																									■			■	■		■					
	関数y=ax^2																																■	■		■	

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学②（図形）	2	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，定義・平行線の性質・三角形の合同条件などを用いて図形の性質を説明する「証明」の仕方を理解させることにより，論理的な考え方や表現力を育成する。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	論理力，表現力の育成のためには，生徒が考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動が大切である。したがって，AL 型授業の活用など，指導法を工夫し，決して形式的な記述指導だけに終わらせないこと。
教科書	中学校数学2（数研出版），中学校数学3（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ幾何編，体系数学問題集Ⅰ幾何編 体系数学Ⅱ幾何編，体系数学問題集Ⅱ幾何編
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1，図形の相似 平行線と線分比，三角形の相似条件について学び，それを基にして図形の性質を論理的に考えることができるようにする。また，相似な図形について，相似比，面積比，体積比の関係を理解する。 2，円周角と中心角 円周角と中心角の関係を理解し，それを用いて円の性質について考察する。 3，三平方の定理 三平方の定理について理解し，それを図形の計量に活用できるようにする。 4，確率 不確定な事象を調べることを通して，確率について理解し，それを用いて考察し表現することができるようにする。 5，標本調査 母集団から標本を取り出し，その傾向を調べることで，母集団の傾向を読み取ることができるようにする。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学②	相似					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	円																																				
	三平方の定理																																				
	確率																																				
	標本調査																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語	6	2年生

1．学習の到達目標等

到達目標	グローバル社会・情報化時代を主体的に生きていくため、コミュニケーションツールとしての英語を習得し、使える力を育成することを目指す。 英語の基礎力を身につけることはもちろんのこと、英語で自分の想いを相手に伝えることができるような表現力をも身につけることを目標とする。
目標を達成するための留意点	英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので、課題も含め毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 授業の復習を確実に行う習慣を身につけ、習ったことは逃さず理解するよう心がける。特に習った単語や熟語は確実に習得するよう繰り返し音読や意味の確認を行うよう指導する。
使用教科書	TOTAL ENGLISH 2 ・3（学校図書 ）
使用副教材	＊5 Stage（数研出版） ＊チャンクで覚える英単語 Basic （三省堂） ＊PYXIS Reading Note Vol.1 (育伸社) ＊発音教材 (ベルリッツ)
評価基準	評価の観点は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」,「表現の能力」,「理解の能力」,「言語や文化についての知識・理解」の４項目を中心とし、「読む，書く，聞く，話す」の４技能も参考にする。 定期考査を基本に、平素の学習態度・提出物、学期毎のプレゼン、定期考査、課題点検試験、リスニング試験、小テストなどを上記の観点に基づいて総合的に評価を行う。
学習内容	名詞・形容詞・副詞・動詞・文型・時制といった基礎的な文法事項を確実に理解する。 英語を使って積極的にコミュニケーションを図る。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	英語	2 Pre-lesson	ミクのスピーチ		■		■	1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		Chapter 1 日記を書こう	相撲部屋訪問			■			■																														
			Word Tree							■																													
		Chapter 2 旅行の計画を立てよう	イギリスへのフライト								■																												
			Word Tree									■																											
			イギリスでのヒロ											■																									
		Chapter 3 将来の夢	Talking Time																■	■																			
			将来について																		■																		
			Word Tree																			■																	
		Chapter4 世界遺産 アニメとマ	主な世界遺産																						■	■													
			マンガ、アニメ																								■	■											
		Chapter4 Project 私の宝物	大切なものを紹介するスピーチ																										■										
																													■										
		3 Lesson1	SVOC																												■	■							
			受動態																														■	■					
		Lesson 2	現在完了																																■			■	

教科	科目	授業時数	対象学年
理科	理科１分野	2	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	１．回路の基本的性質や、電圧と電流との関係について規則性を見出させる。 ２．静電気と電流には関係があることを見出させ、電流の正体について理解させる。 ３．電気の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させる。 ４．電気分解の実験より、イオンの存在を知り、イオンの生成と原子の構成が関係することを理解する。 ５．イオンのモデルを用いて電池の原理が説明できるようにする。 ６．酸やアルカリの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知らせる。 ７．酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを知るとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。 ８．２力がつり合う条件を理解させる。作図によって合力を求めることができるようにする。また、分力の求め方を理解させる。 ９．物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につけさせ、物体にはたらく力と運動の関係を理解させる。 10．仕事の量の求め方を理解させ、仕事の原理を見出させる。 11．エネルギーの定義を理解させ、力学的エネルギー保存の法則を理解させる。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく，獲得した知識を活用し，考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス２」（啓林館） 「未来へひろがるサイエンス３」（啓林館）
使用副教材	「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．２」（育伸社） 「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．３」（育伸社）
評価基準	＊関心・意欲・態度 ＊科学的な思考・表現 ＊観察・実験 ＊知識・理解 の４つの観点と定期考査，課題，授業への参加姿勢などを基に総合的に評価する
学習内容	◇　電流の性質とその利用 第１章　電流の性質 第２章　電流の正体 第３章　電流と磁界 ◇　化学変化とイオン 第１章　水溶液とイオン 第２章　酸・アルカリと塩 ◇　運動とエネルギー

	第１章　力のつり合いと合成・分解 第２章　力と物体の運動 第３章　仕事とエネルギー 第４章　いろいろなエネルギーとその移り変わり 第５章　エネルギー資源とその利用

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
電流の性質とその利用	電流の性質	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	電流の正体	■	■															
	電流と磁界		■															
化学変化とイオン	水溶液とイオン				■													
	酸・アルカリと塩				■													
運動とエネルギー	力のつり合い						■		■									
	物体の運動									■		■						
	仕事とエネルギー											■						
	多様なエネルギーとその移り変わり													■	■			
	エネルギー資源とその利用															■		■

教科	科目	授業時数	対象学年
理科	理科２分野	2	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく，獲得した知識を活用し，考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス２」（啓林館） 「未来へひろがるサイエンス３」（啓林館）
使用副教材	「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．２」（育伸社） 「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．３」（育伸社）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，マイノート，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	・身近な生物のふえ方を観察させて，無性生殖と有性生殖の特徴を見いださせるとともに，生物がふえていくとき染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わること，そしてその伝わり方に規則性があることを理解させる。 ・太陽や星の見かけの動きから，地球の自転や公転という運動を見いださせる。太陽系の天体の特徴を知るとともに，惑星の動きや見え方，月の満ち欠けと日食・月食について理解させる。 ・植物，動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけて捉えるとともに，自然界では，これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いださせる。日本の自然について，今まで学習してきたことを思い出させ，さらに地域の自然を調査し，自然からの恵みと災害についての理解を深めさせる。自然現象の監視や防災・減災などについても調べ，自然との共生の在り方について考えさせる。科学技術の発展と人間生活とのかかわり方，自然と人間のかかわり方について多面的，総合的にとらえさせる。さらに，自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察させ，持続可能な社会をつくっていくことへの重要性を認識させる。

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
動物のくらしやなかまと生物の変遷	動物のなかまと生物の進化	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
地球の大気と天気の変化	空気中の水の変化	■	■															
	大気の動きと天気の変化		■		■													
	大気の動きと日本の四季				■		■											
生命の連続性	生物の成長とふえ方								■									
	遺伝の規則性と遺伝子								■	■								
宇宙の中の地球	地球とその外側の世界											■						
	太陽と恒星の動き											■		■	■			
	月と金星の動きと見え方														■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
社会	地理・歴史	4	2

1．学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って，社会に対する関心を高め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように，基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し，課題を解決する能力を一層培うため，各分野において，適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して，言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的，体験的な学習の充実を図る。その際，情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき，政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	中学生の地理　世界の姿と日本の国土　（帝国書院） 中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き　（帝国書院）
使用副教材	・ビジュアル地理　世界　日本（とうほう）・基礎をきずく地理②　帝国書院版（浜島書店） ・中学歴史資料集　学び考える歴史（浜島書店） ・基礎をきずく歴史②③　帝国書院版　（浜島書店）
評価基準	社会事象への関心・意欲・態度／社会的な思考・判断・表現／資料活用の技能／社会的事象についての知識・理解　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して評価する。
学習内容	[地理]　第 2 部　第 1 章　日本の姿 第 2 章　世界と比べた日本の地域的特色 1 節　自然環境の特色　2 節　人口の特色 3 節　資源や産業の特色　4 節　地域間の結びつきの特色 第 3 章　日本の諸地域 1 節　九州地方　2 節　中国・四国地方　3 節　近畿地方　4 節　中部地方 5 節　関東地方　6 節　東北地方　7 節　北海道地方 第 4 章　身近な地域の調査 [歴史]　第 4 部　武家政権の展開と世界の動き 第 4 章　天下泰平の世の中　第 5 章　社会の変化と幕府の対策 第 5 部　近代国家の歩みと国際社会 第 1 章　欧米諸国における「近代化」　第 2 章　開国と幕府の終わり 第 3 章　新しい価値観の下で　第 4 章　近代国家への歩み 第 5 章　帝国主義と日本　第 6 章　アジアの列国の光と影 第 5 部　近代国家の歩みと国際社会 第 1 章　第一次世界大戦と民族独立の動き第 2 章　高まるデモクラシーの意識 第 3 章　軍国主義と日本の行方　第 4 章　アジアと太平洋に広がる戦線 第 5 部　近代国家の歩みと国際社会 第 1 章　敗戦から立ち直る日本　第 2 章　世界の多極化と日本の成長 第 3 章　これからの日本と世界

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	社会	地理 第2部 第3部	第1章，第2章																																		
			第2章																																		
			第3章 1節																																		
			第3章 2節																																		
			第3章 3節																																		
			第3章 4節																																		
			第3章 5節																																		
			第3章 6節																																		
			第2，3部　第4章																																		
		歴史 第4部 第5部 第6部 第7部	第4章																																		
			第4章，第5章																																		
			第1章																																		
			第2章																																		
			第3章，第4章																																		
			第5章，第6章																																		
			第1章																																		
			第2章																																		
			第3章																																		
			第4章																																		
			第1章，第2章																																		
			第2章，第3章																																		

1学期中間考査

1学期期末考査

2学期中間考査

2学期期末考査

学年末考査

教科	科目	授業時数	対象学年
保健体育	体育	3	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康安全についての理解と運動の合理的な実践を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
目標を達成するための留意点	運動に関する領域は体つくり運動、器械運動、陸上競技、球技、武道及びダンスであり、知識に関する領域は体育理論で行う。
使用教科書	保健体育（大修館）
使用副教材	図解中学体育実技（廣済堂あかつき）
評価基準	１、関心・意欲・態度 ２、思考・判断 ３、運動技能 ４、知識・理解 上記４つの観点と実技テスト、定期考査、プリントの記述、授業に参加する姿勢などをもとにして総合的に判断する。
学習内容	男子 集団行動、体つくり運動、新体力テスト、陸上競技、ダンス、バレーボール、ソフトボール、剣道、器械運動、バスケットボール、サッカー 女子 集団行動、体つくり運動、新体力テスト、陸上競技、ダンス、バレーボール、ソフトボール、剣道、器械運動、バスケットボール、サッカー 保健　心身の発達と心の健康 体育理論　運動やスポーツの効果と安全

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2	体育	集団行動						1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		体つくり運動																																					
		新体力テスト																																					
		陸上																																					
		ダンス																																					
		球技																																					
		保健	健康と環境																																				
		体育理論	運動やスポーツの効果と安全																																				

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	技術分野	1	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	● 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を修得することで、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労や家庭生活の尊さや意義についての理解を深める。 ● 進んで生活を工夫し想像しようとする態度を身に付け、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよくしようとする意識を持つ。 ● 仲間の発想や意見を取り入れ、物や技術の価値を自ら判断し、社会の変化に対応したり、主体的に身の回りの技術を活用したり、新たな技術を創造したりする力を身に付ける。
目標を達成するための留意点	● 実践的・体験的な学習活動を中心に、課題解決のための工夫する姿勢や技能を身に付けます。授業で得た知識や技能を、自分の生活に繋げられるように意識して授業に臨んでください。 ● 課題解決のための工夫の方法はたくさんあります。仲間と協働して学習し、アイデアを拡げていきましょう。 ● 実習には危険を伴います。自分と他人を傷つけてしまわないように、安全対策を十分に行い、事故が起きないように全員で注意しあいましょう。
使用教科書	「技術・家庭（技術分野）」（開隆堂）
使用副教材	「技術・家庭総合ノート（技術分野）」（明治図書）、プリント教材　他
評価基準	● 毎回の授業に意欲的に参加し、それぞれが課題を持ち解決しようとすること。 ● 授業内容や実習内容について理解し、定期考査等で表現できること。 ● 製作する作品や、提出物を自分なりの工夫を加えて完成させ提出できること。
学習内容	1．材料と加工に関する技術（A） ・ ものづくりの工夫と進め方 ・ さまざまな材料の特徴、環境とのかかわり ・ 設計 設計の進め方、機能・構造・材料・加工方法を考える ・ 木材による製作 工程、けがき、切断、切削、穴あけ・溝ほり、部品の検査・修正、組み立て、仕上げ ・ 金属などさまざまな材料による製作 ・ 材料と加工、社会・環境とのかかわりと未来 2．生物育成に関する技術（C） ・ わたしたちの生活と生物育成 ・ 作物の栽培

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	技術	A 材料と加工に関する技術	ものづくりの工夫と進め方		■			1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			さまざまな材料の特徴、環境とのかかわり			■	■																																
			設計						■	■																													
			木材による製作								■	■		■					■	■	■	■																	
			金属などさまざまな材料による製作																				■	■	■	■		■											
			材料と加工、社会・環境とのかかわりと未来																												■	■							
		D 生物育成に関する技術	わたしたちの生活と生物育成																														■	■					
			作物の栽培																																■			■	

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	家庭分野	1	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	自分や家族の食生活や消費生活に関心をもち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫して調理ができる。　また消費者の基本的な権利と責任、環境に与える影響について考え理解し、消費生活について工夫し、実践できる力をつける。
目標を達成するための留意点	「B食生活と自立」においては，心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図る視点から，食生活の自立を目指し，中学生の栄養と献立，調理や地域の食文化などに関する学習活動を重視する。 「D身近な消費生活と環境」においては，社会において主体的に生きる消費者としての教育を充実する視点から，消費者としての自覚や環境に配慮した生活の工夫などにかかわる学習について，中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を重視する。
使用教科書	「技術・家庭（家庭分野）」（開隆堂）
使用副教材	「技術・家庭総合ノート（家庭分野）」（明治図書）、プリント教材　他
評価基準	● 「B食生活と自立」においては，食生活と栄養について関心をもち、課題を見付け、その解決を目指して工夫できること。また食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、安全と衛生に留意して調理操作ができること。 ● 「D身近な消費生活と環境」においては，家庭生活と消費、環境に与える影響について関心をもって、その課題解決を目指した工夫、基礎的・基本的な知識・技術を身につけること。
学習内容	B 食生活と自立 １．健康と食生活 ２．食品の選択と保存 ３．調理をしよう ４．地域の食材と食文化 ☆簡単に作れる日常食の調理実習 D 身近な消費生活と環境 １．家庭生活と消費 ２．商品の選択と購入 ３．よりよい消費生活のために ４．環境に配慮した生活

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	家庭	B 食生活と自立	健康生活と食生活		■	■	■	1学期中間考査	■	■			1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			食品の選択と保存								■	■		■					■	■	■																		
			調理をしよう																			■	■	■	■														
			地域の食材と食文化																							■	■	■											
		D 身近な消費生活と環境	家庭生活と消費																												■	■							
			商品の選択と購入																													■	■						
			よりよい消費生活のために																															■	■				
			環境に配慮した消費生活																																	■		■	

教科	科目	授業時数	対象学年
美術	美術	1	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の造形活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
目標を達成するための留意点	＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんとやる。（忘れ物をしない） ・表現材料や用具・作品を大切にし、丁寧に扱う。　・自分の作品を大切にし、ねばり強く、集中して制作に取り組む。 ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、強い追求心をもち、 最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。
使用教科書	美術２・３（開隆堂）
使用副教材	レタリング字典（秀学社）　他にプリント教材
評価基準	① 美術への関心・意欲・態度 ：美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。 ② 発想や構想の能力 ：感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。→ 作品・定期テストなどで評価します。 ③ 創造的な技能 ：感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身につけ、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。 → 作品・定期テストなどで評価します。 ④ 鑑賞の能力 ：感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。→ 授業プリント・レポート・定期テストなどで評価します。
学習内容	１　主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ２　対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層深め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。 ３　自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	美術	スケッチ	自分なりの見方や感じ方を大切にし、観察を深めてスケッチする。		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		ポスターで伝える（アイデア）							■																														
		ポスター制作	伝えたいことや主張したい内容、表し方を工夫してポスターを制作する。							■																													
		暮らしとデザイン	＜デザインの基礎＞＜視覚伝達デザイン＞ ＜漫画表現＞								■																												
		漫画表現	漫画の技法を使い、自分の思いや考えを人に伝わるように表す。									■		■					■																				
		様々な遠近法	日頃見慣れた風景を視点を変えてとらえ、新たな表現の可能性を試みる。																	■																			
		見方を変えて																			■																		
		透視図法	透視図法、空気遠近法の仕組みを理解する。																			■	■																
		空気遠近法																				■	■																
		抽象彫刻	心のイメージを抽象であらわす。																						■	■													
		水墨画の世界	日本の伝統的な絵画の世界を知る。																									■			■	■							
		手づくりの楽しみ	タイルを使ったモザイクで実用性のあるものを制作し、美しい形や色を工夫する。手づくりのよさを味わう。																									■			■	■							
		モザイクアート																															■	■					
		工芸の世界	生活を支える工芸品や生活雑器などについて知る。																																■			■	

教科	科目	授業時数	対象学年
音楽	音楽	1	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	基本的な読譜・楽典事項を理解しよう。／楽器の特徴をとらえて鑑賞しよう。／各自の声を生かして合唱しよう。／アルト・リコーダーの基本奏法に慣れよう。／日本の伝統音楽を知ろう。
目標を達成するための留意点	３学期に各クラス１時間分の日本音楽講習会（箏曲）を実施する。
使用教科書	中学音楽　音楽のおくりもの２・３上／中学器楽　音楽のおくりもの（教育出版）
使用副教材	音楽ノート <NEW MUSIC NOTE>　（教育芸術社）
評価基準	◆＜各学期の評価＞実技１００点、ノート・提出物１００点、定期テスト１００点の３００点満点を３で割り、１００点満点の評点とする。授業の欠席・忘れ物・態度不良等は評点より減点する。教務の規定により１０段階、学年末は５段階評定に置き換える。　◆＜観点別評価＞各項目を次のとおりとする。Ⅰ…出席状況・態度、ノート・プリント等の提出率、実技テストの受験率、定期テストの得点率。Ⅱ…ノート等の内容、音楽行事への貢献。Ⅲ…実技試験の得点率、その他実技の技能。Ⅳ…鑑賞曲の感想内容、その他鑑賞活動。
学習内容	◆楽典（各教材の中で指導）：ヘ音記号のソルフェージュ／リズム打ち　　◆歌唱教材：花の街／語り合おう／アメージング・グレイス／浜辺の歌／（合唱コンクールの曲）／雪の降る街を／早春賦　　◆鑑賞教材：組曲「展覧会の絵」／交響曲第５番／「小フーガ　ト短調」／雅楽「越天楽」／長唄「勧進帳」／ポピュラー音楽　◆器楽教材：ヘ長調の音階／「オーロラ」／「星に願いを」／「大きな古時計」／鍵盤の演奏（フーガの主題、各種の音階）／箏曲「さくら」　◆音の３要素／コンピューターと音楽／簡単な創作　　※今年度は芸術鑑賞のための事前学習（ミュージカル）を実施

２．指導計画

学年	科目	単元	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
2年	音楽	「花の街」…歌唱・歌詞・作曲の仕組み・休符・強弱		■			1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		「語り合おう」…ソルフェージュ・混声3部練習・仕上げ			■																																	
		「展覧会の絵」…オーケストラの楽器・楽曲の内容・さまざまな編曲版			■	■																																
		「音の3要素」…音の仕組み・特性						■																														
		平和学習事前学習「平和と音楽」							■																													
		「浜辺の歌」…楽曲の特徴、表現手法								■	■																											
		音のスケッチ…簡単な創作											■					■																				
		コンピューターと音楽																■																				
		「小フーガ　ト短調」…バロック音楽・バッハについて・オルガンの仕組み・フーガの特徴																	■	■																		
		合唱コンクールに向けて…選曲・役割・パート分け・練習・仕上げ・本番演奏・振り返り																			■	■	■	■	■	■												
		※芸術鑑賞事前学習：ミュージカルについて（3学年共通）																						■														
		雅楽「越天楽」…雅楽の楽器・楽曲について・鑑賞																										■			■	■						
		長唄「勧進帳」…歌舞伎音楽の楽器・楽曲について・鑑賞																														■	■					
		＜器楽＞（リコーダー）　ヘ長調の音階・昨年の復習・「オーロラ」「星に願いを」「大きな古時計」																															■	■	■			
		日本音楽（箏曲）講習会…外部講師の指導により「さくら」を演奏																															■					
		日本の歌曲「雪の降る街を」「早春賦」																																			■	
		ポピュラー音楽…様々な様式・年代の音楽の鑑賞																																			■	